

経営比較分析表（平成29年度決算）

神奈川県 愛川町

業務名	業種名	事業名	類似団区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	73.35	67.70	2,070	

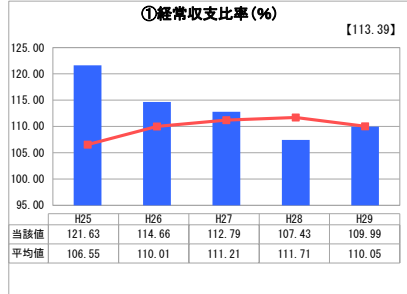
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
40,843	34.28	1,191.45
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
27,503	30.00	916.77

グラフ凡例

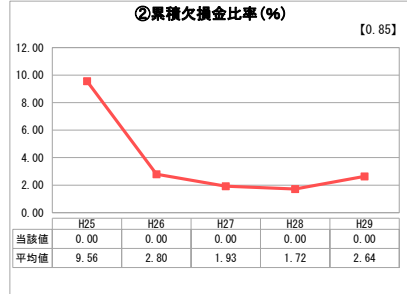
- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)

【】 平成29年度全国平均

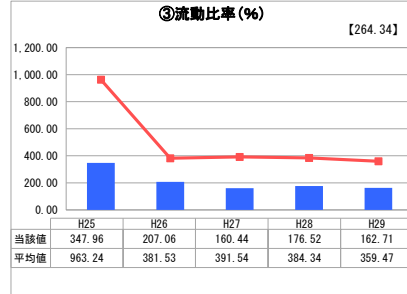
1. 経営の健全性・効率性



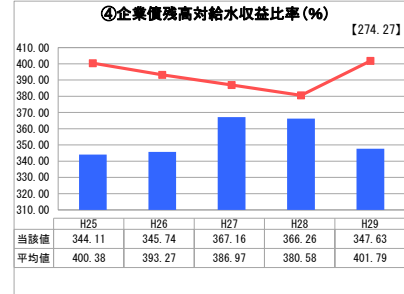
「経常損益」



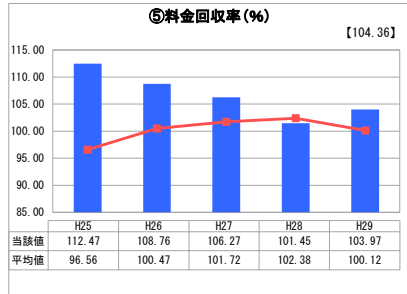
「累積欠損」



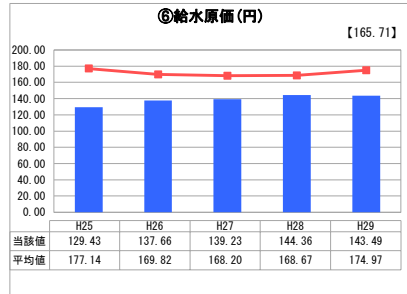
「支払能力」



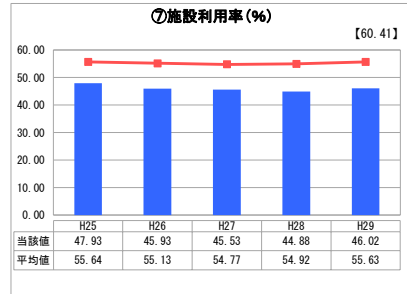
「債務残高」



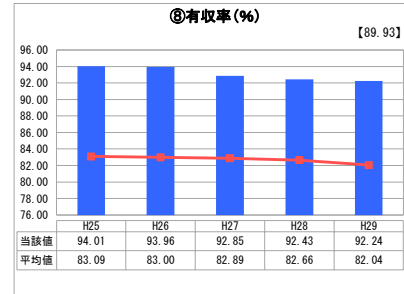
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

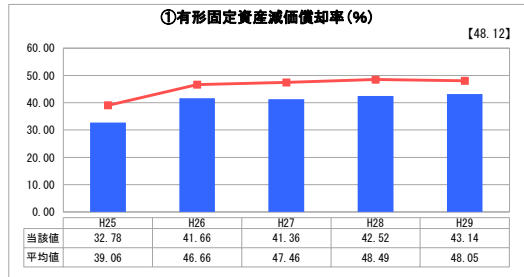


「施設の効率性」

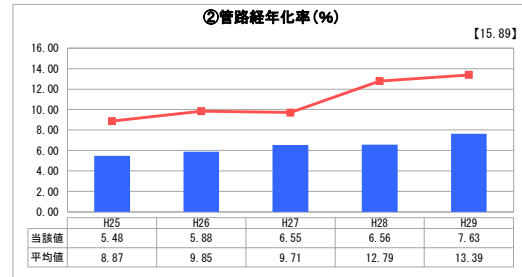


「供給した配水量の効率性」

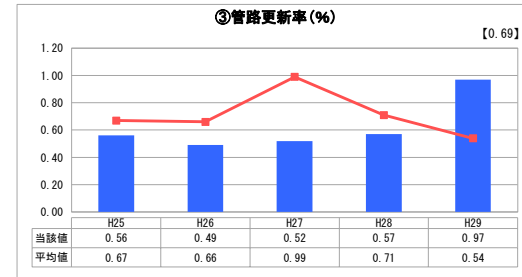
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

料金収入の減少が続いておりましたが、H29年度は増加に転じました。そのため、経常収支比率、料金回収率ともに上昇し、経常収支比率は平均値をやや下回るものの、料金回収率は平均値を上回りました。

給水原価は、支出は増加しておりますが、有収水量の増加の影響で微減となっており、平均値を下回る状況が続いております。

経常収支比率、料金回収率、流動比率は料金回収率以外は平均値を下回るものの100%を越えており、累積欠損金比率は0%で経営の健全性は保たれています。

企業債残高対給水収益比率は過去の借入の償還完了により企業債残高が減少しております。

施設利用率は平均値を下回り50%以下となっております。今後は設備の整理縮小も検討する必要があります。

有収率は平均値を上回るものの、毎年減少しており、引き続き漏水調査等を行い有収率の回復に努めます。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率・管路経年率は平均値より低い数値にあります。これは、管路をはじめとする固定資産が比較的新しく老朽化の進行が緩やかであると分析されます。しかし、毎年上昇しており、数年後には耐用年数を越える管が急速に管路経年率が上昇します。

管路更新率は、平均値を上回っておりますが1%を下回っており高い水準にはありません。管路以外の設備の更新などにも費用が必要であり管路の老朽化も進んでいないことから、低い数値となっております。

全体総括

料金収入が増加に転じたことにより、経常収支比率や料金回収率が上昇し、経営状態は好転しました。ただし、既存の大口使用者の使用量の増加が原因であり、景気の動向によっては、来年度以降再び減少となる可能性もあります。

料金収入の減少傾向に歯止めがかかり経営状態は好転しましたが、料金収入が再び減少する可能性もあり、今後については予算が許されず、H10年から振替している料金についても見直しが必要な時期が近づいております。

有形固定資産減価償却率や管路経年率が低いので現時点では更新投資の先送りをしている状況にはありません。

管路経年率が低いとはいえ、今後は管路更新率の上昇が課題となります。財政的な制約もあるなかで、当面は優先順位を絞りながら更新を進めてまいります。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。